

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) **登録実用新案公報 (U)**

(11)実用新案登録番号

第3012844号

(45)発行日 平成7年(1995)6月27日

(24)登録日 平成7年(1995)4月19日

(51)Int.Cl.⁶

A 47 G 25/12

識別記号

府内整理番号

J 7137-3K

F I

技術表示箇所

評価書の請求 未請求 請求項の数1 書面 (全5頁)

(21)出願番号 実願平6-17363

(22)出願日 平成6年(1994)12月21日

(73)実用新案権者 595017090

高添 清則

東京都稻城市平尾3丁目7番地の5 平尾
住宅53棟505号

(72)考案者 高添 清則

東京都稻城市平尾3丁目7番地の5 平尾
住宅53棟505号

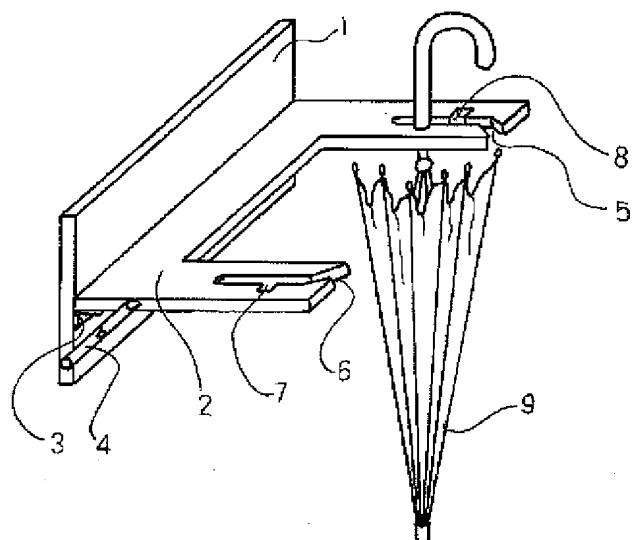
(54)【考案の名称】 傘掛け

(57)【要約】

【目的】 短い傘でも、長い傘でも、握柄が棒状の傘でも、片手で簡単に傘を掛け外しができ、場所を取らない傘掛けを提供する。

【構成】 垂直板(1)の表面に、間隔を有する連続した突状部(2)を蝶着し、間隔を有する連続した突状部(2)を水平以上に保持可能な、折り畳み支持具

(4)を設け、間隔を有する連続した突状部(2)の共の先端から長く切り込み(5)、(6)を形成し、切り込み(5)、(6)の共に内側中間部に相対する凹部(7)、(8)を形成することを特徴とする。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 垂直板(1)の表面に、間隔を有する連続した突状部(2)を蝶着(3)し、間隔を有する連続した突状部(2)を水平以上に保持可能な、折り畳み支持具(4)を設け、間隔を有する連続した突状部(2)の共の先端から長く切り込み(5)、(6)を形成し、切り込み(5)、(6)の共に内側中間部に相対する凹部(7)、(8)を形成することを特徴とする傘掛け。

【図面の簡単な説明】

【図1】本考案の斜視図である。

【図2】本考案の他の実施例を示す斜視図である。

【図3】本考案の他の実施例を示す斜視図である。

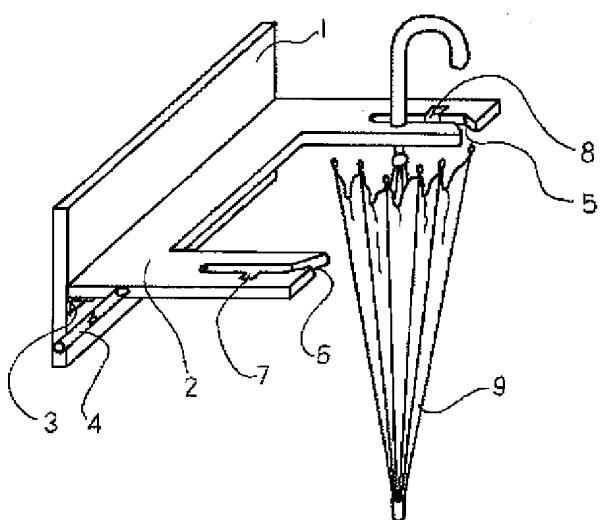
【図4】本考案の収納時の実施例を示す斜視図である。*

2

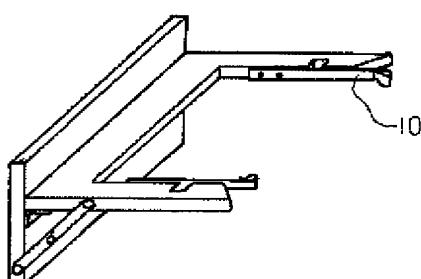
*【符号の説明】

1	垂直板
2	間隔を有する連続した突状部
3	蝶着
4	折り畳み支持具
5	切り込み
6	切り込み
7	凹部
8	凹部
9	傘
10	板バネ
11	切り込み凹部
12	切り込み凹部

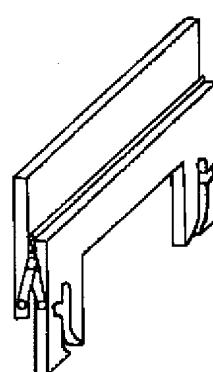
【図1】



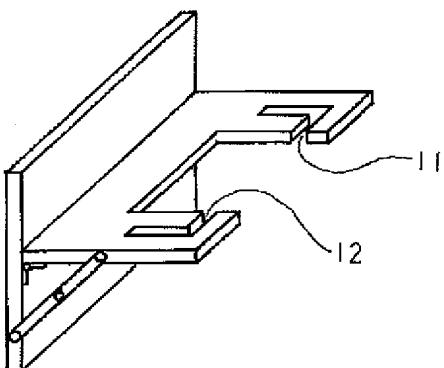
【図2】



【図4】



【図3】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

この考案は、傘掛けに関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

従来、傘立てや傘の握柄を掛ける物、又は、傘軸を定着させる傘掛けがあった。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

これは次ぎのような欠点があった。傘を立てるときに傘先を傘立てより高く持ち上げなければ傘立てに入らない。傘の中に傘を差してしまう。子供用傘が立たなかつたり、立てられても他の傘に潜ってしまって容易に取り出せない。あるいは、傘の握柄が棒状の物は掛けられない。傘軸を片手で容易に定着できない。又、不使用時には場所を取るために不便を感じていた。

【0004】**【課題を解決するための手段】**

垂直板（1）の表面に、間隔を有する連続した突状部（2）を蝶着（3）し、間隔を有する連続した突状部（2）を水平以上に保持可能な、折り畳み支持具（4）を設け、間隔を有する連続した突状部（2）の共の先端から長く切り込み（5）、（6）を形成し、切り込み（5）、（6）の共に中間部に相対する凹部（7）、（8）を形成する。

本考案は以上の構成よりなる傘掛けである。

【0005】**【作用】**

垂直板（1）の裏面を壁面等に固着し、突状部（2）を支持具により水平以上に保持し、切り込み（5）、（6）へ傘軸を差し挿すことにより、傘の握柄で懸吊することができる。又、多本数の傘が懸吊している状態で、取り外しを行うとき、傘が隣の傘と絡まって、切り込み中間部の凹部（7）、（8）に隣の傘軸が

収まって、隣の傘が同時に外れてしまうことを防止することができる。なお、この傘掛けを横並びに連続して壁面等に固着しても、凹部（7）、（8）はその効果を有する。さらに、蝶着（3）と折り畳み支持具（4）により、折り畳むことができる。

【0006】

【実施例】

図1は垂直板（1）の表面に、間隔を有する連続した突状部（2）を蝶着（3）し、間隔を有する連続した突状部（2）を水平以上に保持可能な、折り畳み支持具（4）を設け、間隔を有する連続した突状部（2）の共の先端から長く切り込み（5）、（6）を形成し、切り込み（5）、（6）の共に内側中間部に相対する凹部（7）、（8）を形成する。

本考案は以上のような構造である。

これを使用するときは、垂直板（1）の裏面を壁面等に固着し、間隔を有する連続した突状部（2）を支持具により水平以上に保持し、間隔を有する連続した突状部（2）の共の先端からの切り込み（5）、（6）より、傘軸を遊撃することにより傘の握柄で懸吊することができる。又、多本数の傘が懸吊している状態で、取り外しを行うとき、傘が隣の傘と絡まって、明り込み中間部の凹部（7）、（8）に隣の傘軸が収まって、隣の傘が同時に外れてしまうことを防止することができる。なお、この傘掛けを横並びに連続して壁面等に固着しても、凹部（7）、（8）はその効果を有する。さらに、蝶着（3）と折り畳み支持具（4）により、折り畳むことができる。

図2は突状部の切り込みの代わりに板バネ（10）を装着し、切り込みと凹部を形設してもよい。

図3は突状部の切り込みと凹部の代わりに、突状部の側面より相対する切り込み凹部（11）、（12）を形成してもよい。

【0007】

【考案の効果】

この考案は前記のように構成され、子供用の短い傘でも、長い傘でも、握柄が棒状の傘でも、傘が片手で簡単に掛けられる。又、連吊状態でも凹部に軸逃があ

るため傘が絡まって隣の傘を同時に落とすことがない。この効果はこの傘掛けを横並びに壁面等に固着して使用しても同様である。不使用時には折り畳むことができるため場所を取らず、広く確保できる。